

2016年度 SIP-adus 施策概要

施策名	自動走行システムにおける国際協調活動の推進に係る調査検討
担当組織	株式会社博報堂
研究代表者名	テーマビジネス開発局 濱口 建
プロジェクトの目標、背景	
<p>本業務となる「内1：自動走行システムの実現に向けた諸課題とその解決の方向性に関する調査・検討」では、①情報発信、②国際会議開催、④社会受容性の醸成に着目し、SIPにおいて取り組む研究開発テーマにおける国内外の最新動向を一元的に集約し、研究開発の推進、方向性検討等に資することを目的とする。</p>	
プロジェクトの概要	
<p>本業務では、SIPの対象課題の一つである自動走行システムについて、国際連携WGにおける国際連携の構築を目的とした活動に関して、国内における国際会議開催を通じた諸外国における研究開発の最新動向の調査、自動走行システムの社会受容性の醸成に向けた地域イベント等の開催を通じた一般社会における自動走行システムに関する意見の調査、および国際連携WGの活動の情報発信を実施した。</p> <p>ワークショップの開催と報告</p> <p>国内における国際会議開催を通じた諸外国における研究開発の最新動向の調査において、米欧より各テーマに基づく最先端の研究を担う官民からの登壇者を招き2016年11月15日～17日にてワークショップを開催。その中で、米欧それぞれが近い将来を見つめ、日本と共通の課題認識をもつことがわかったと同時に、官民あるいは民間同士での共同研究なども進んでいる点において多くの示唆を与えられた。そして、今回のようなワークショップを通じた日米欧の取組を今後も継続し、相互理解や協力体制の確立が必要であることを改めて確認するものとなった。</p> <p>市民参加イベントの開催と報告</p> <p>自動走行システムの社会受容性の醸成に向けた地域イベントを通じた一般社会における自動走行システムに関する意見の調査では、SIP-adusにおける研究開発内容や専門知識を一般市民に伝えるというアプローチのみならず、市民からの期待や懸念を率直に表現していただくものを想定して開催。SIP-adusの活動に反映することも行う双方向のコミュニケーションの場として「市民ダイアログ」を2016年11月1日、2017年1月17日、2月21日の3回に渡り開催し、市民の意見をまとめた。</p> <p>情報発信・ホームページでは、以下を実施し成果を得た。</p> <p>新たにCMS環境を構築し、即時性のある情報発信が可能となった。またナビゲーション導入することで、ページ遷移を容易にし、よりユーザーフレンドリーな構造とした。今回のサイトリニューアルにおいては、日本語サイトと対になる英語サイトをローンチし、言語による情報の差を解消することで、国際的な情報発信を強化した。</p>	
今後の課題	
<p>本調査を通じて、米欧の活動状況の情報収集し、日本の取組みとの相違点を明らかとし、日本が国際的にリーダーシップを発揮していくべき優位性のある取組、および海外で進められている地方展開などの取組から、日本での取組に反映すべき活動を見出した。今年度の活動を活かし、次年度以降のSIPの取組をより有意義かつ実効性を持った活動にしていくことが重要である。これにより、日本が自動走行システム分野において、国際連携を強力に牽引する役割を担っていくことが求められる。</p> <p>さらに、一般市民の声を受け、その土台となる日本国内の社会受容性の強化を並行して推し進めることも重要である。特に、今回の市民ダイアログでは、技術面だけでなく、責任分岐に係る法制度、高齢者等にとって難解な操作方法、自動走行システムによる将来の社会像など、自動走行システムに対して多種多様な一般市民の意見が得られている。SIPの各WGでは技術的な議論が中心となるが、推進委員会等の上位組織での検討に加え、各WGレベルで得られる課題を関係者一同で検討していくことが求められる。</p>	